

民間救命救急センターの現状について

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院

救命救急センター

許 勝栄

松本二次医療圏の人口



松本市:	243,037
安曇野市:	96,479
塩尻市:	67,670
山形村:	8,425
筑北村:	5,172
朝日村:	4,741
麻績村:	2,970
生坂村:	1,953

総人口: 430,447

平成22年 国勢調査

松本二次医療圏の救急医療と相澤病院

救急医療施設数

- 三次救急医療施設: 2病院
- 二次救急医療施設: 9病院

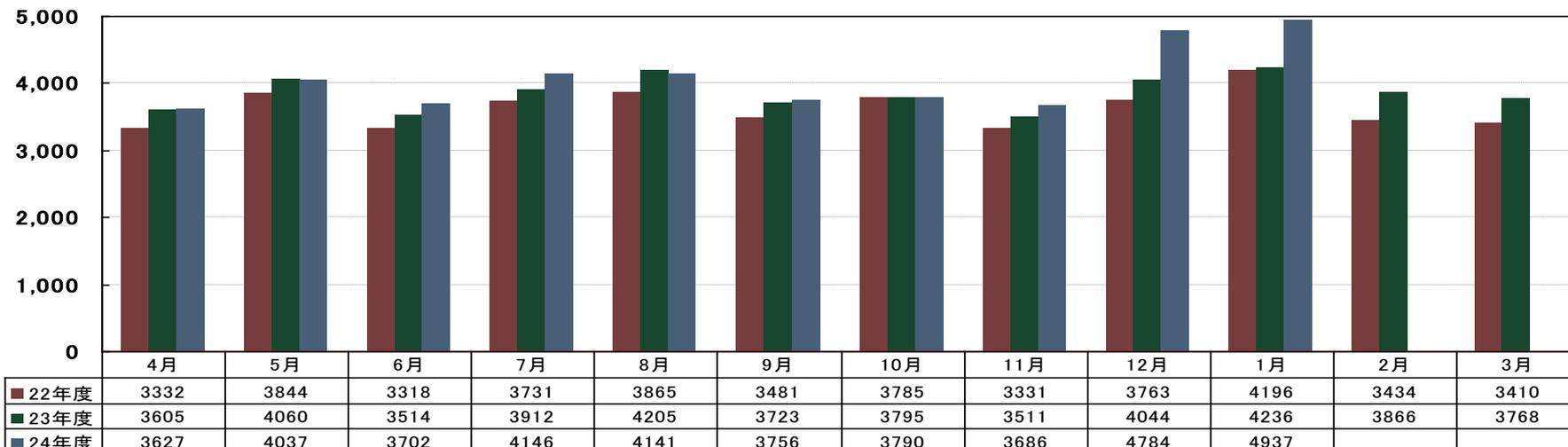
相澤病院

- ✓ 新型救命救急センター
- ✓ 二次救急輪番制に参加

救急患者をいつでも受入れる病院(ER型救急施設)
として地域の救急医療に寄与

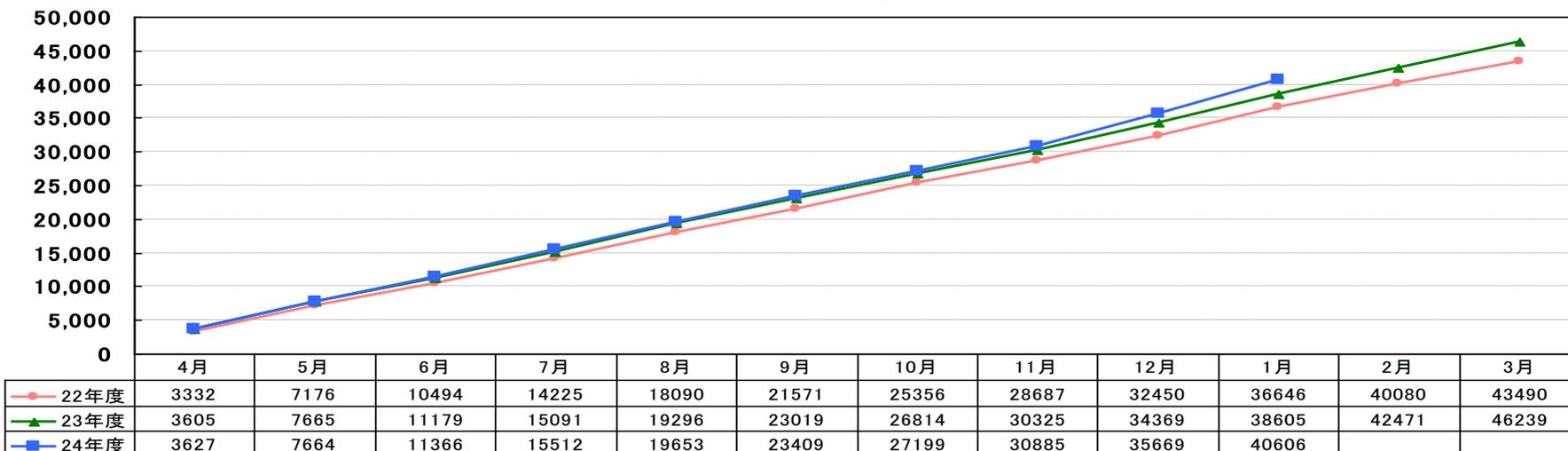
相澤病院ER 受診患者数

ER受診者数・月推移



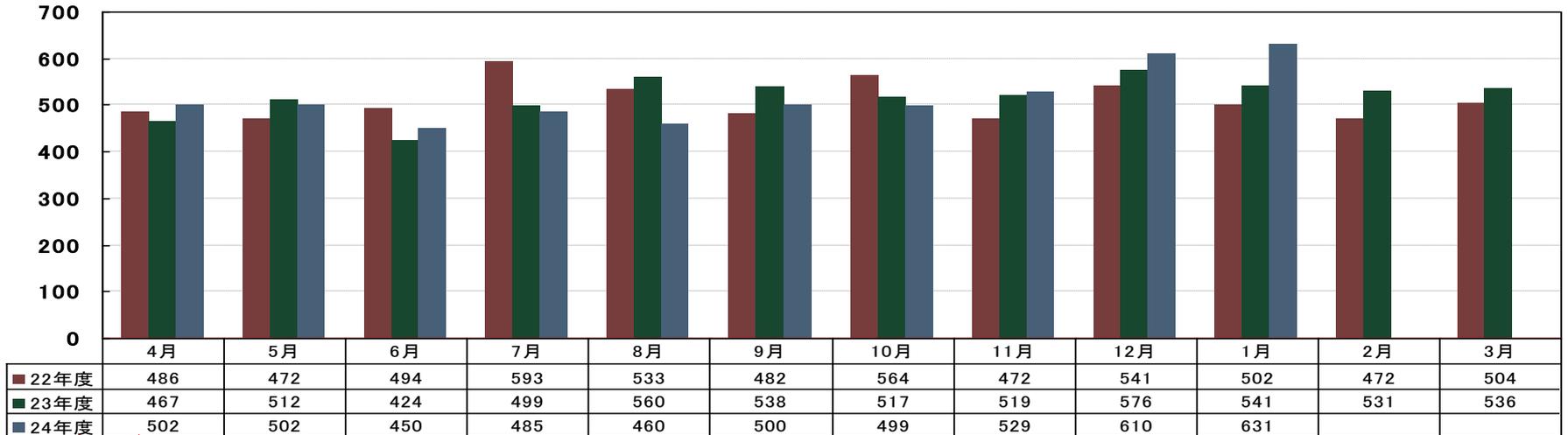
※ER受診者数⇒当院救命救急センターを受診した患者総数

ER受診者数・累積



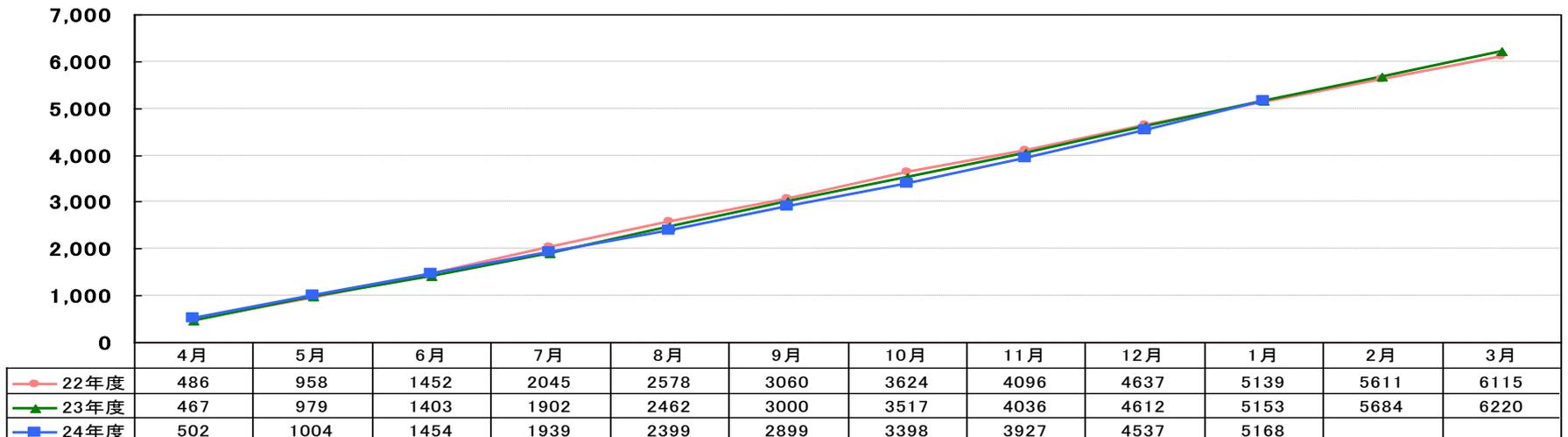
相澤病院ER 救急車搬入件数

救急車台数・月推移

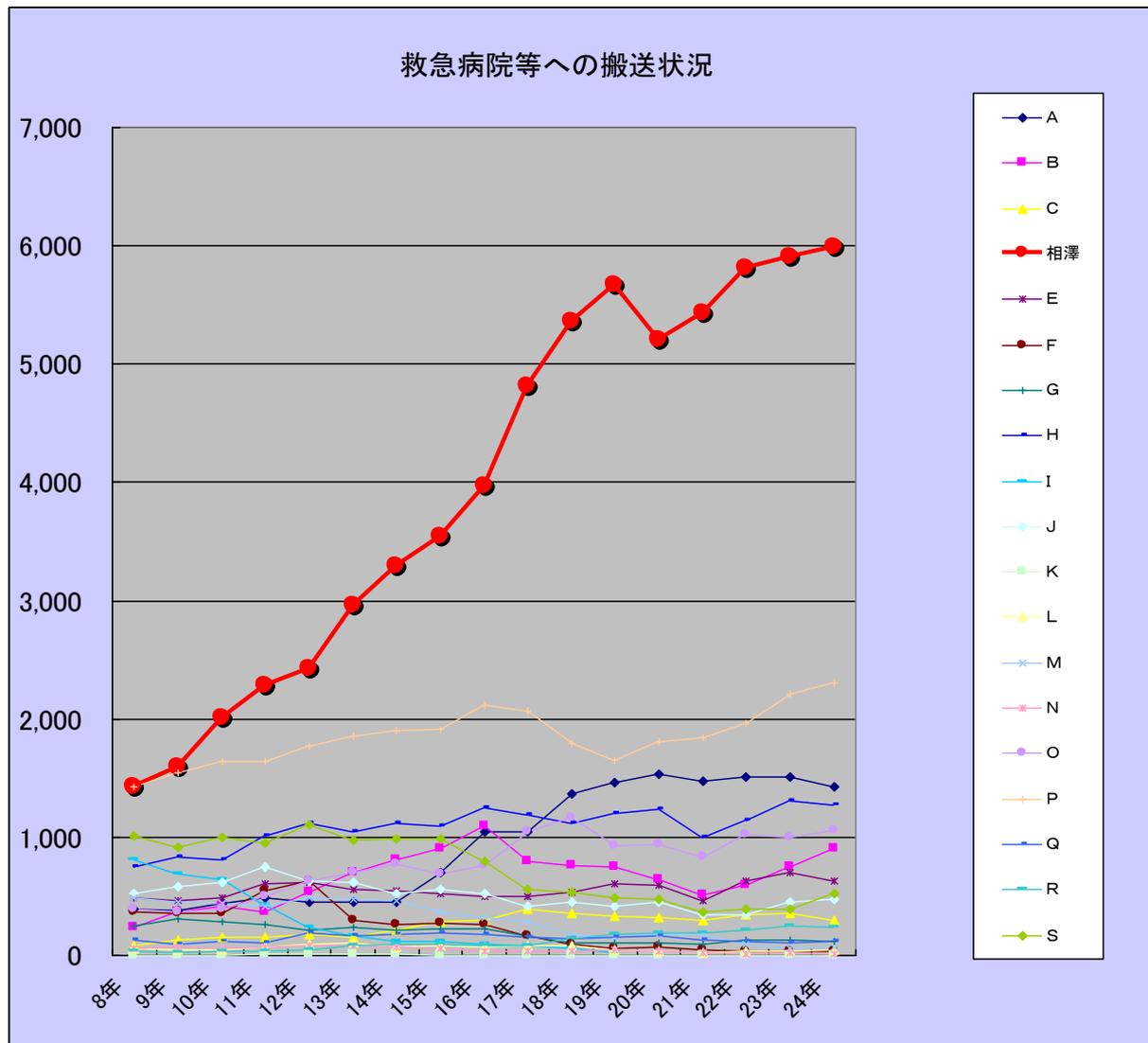


※救急車台数⇒当院に患者搬送で来院した救急車の台数

救急車台数・累積



松本広域内 医療機関別救急車収容件数



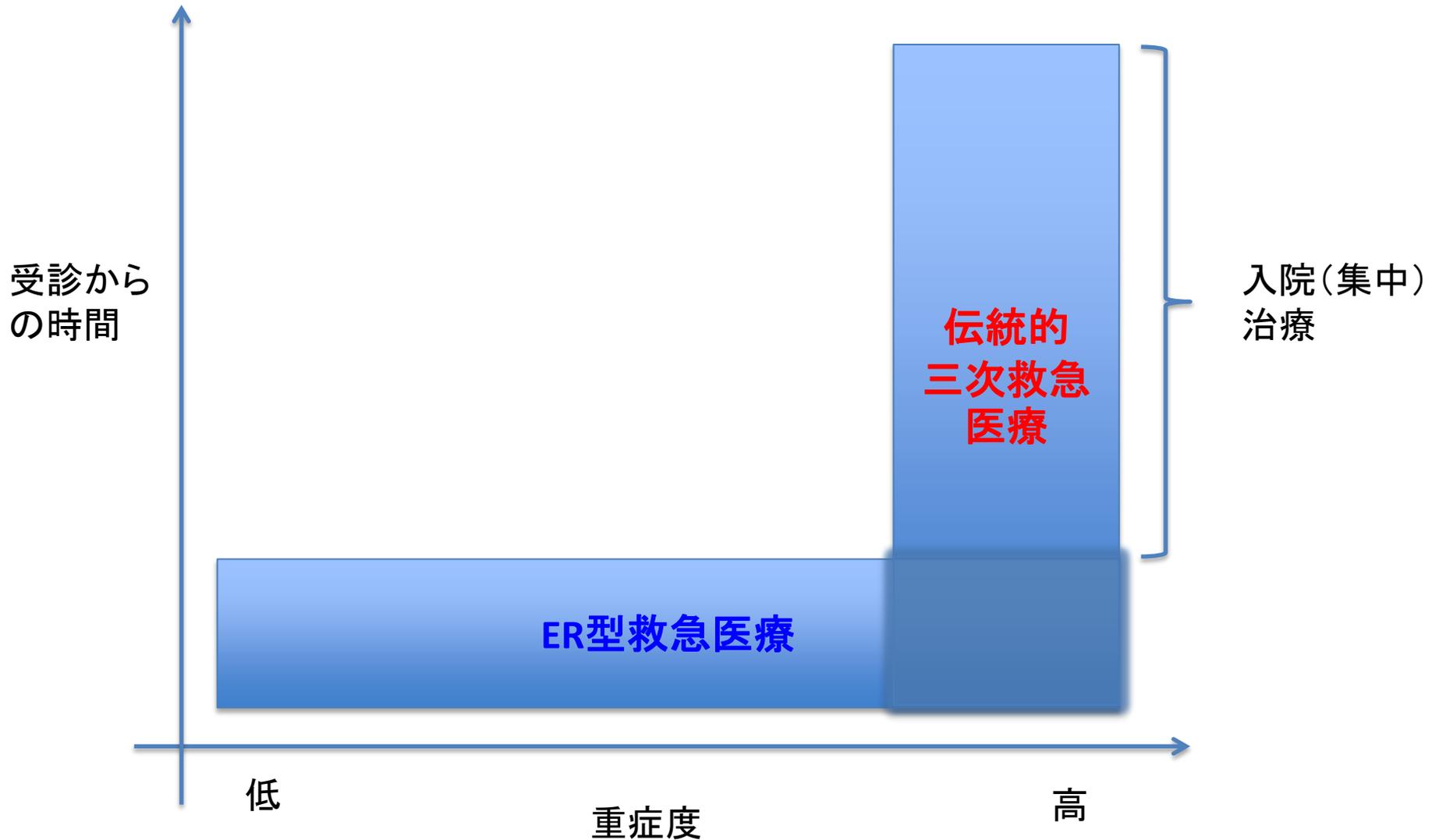
重症以上の照会回数に関する全国との比較

(平成23年)

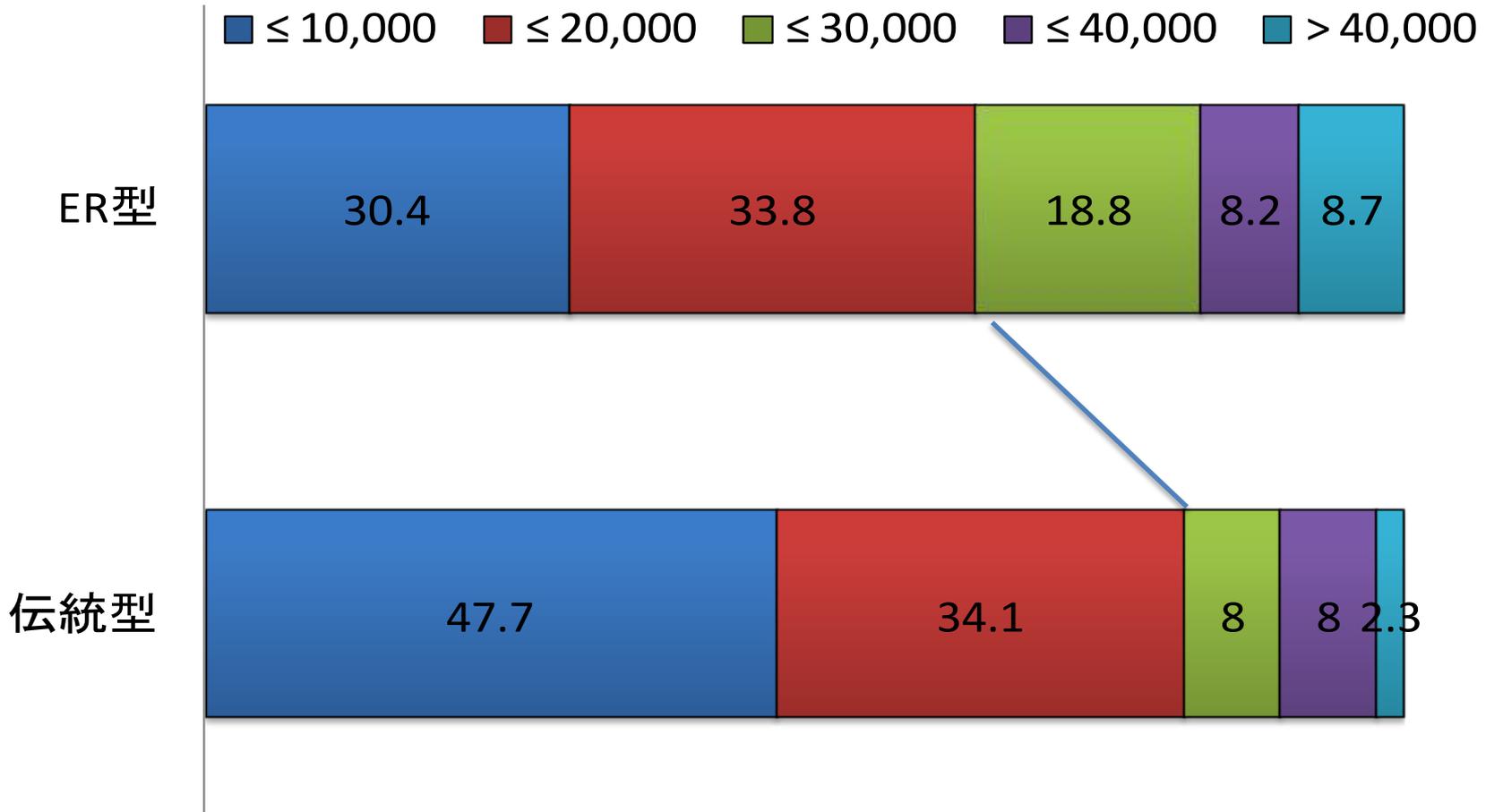
回数	1回	2～3回	4～5回	6～10回	11回以上	備考
松本広域消防局	95.4%	4.5%	0.1%	-	-	最大4回(1件)
※全国統計	82.2%	13.9%	2.6%	1.1%	0.2%	最大42回

※全国統計は消防白書(H24年度版-H23統計)より

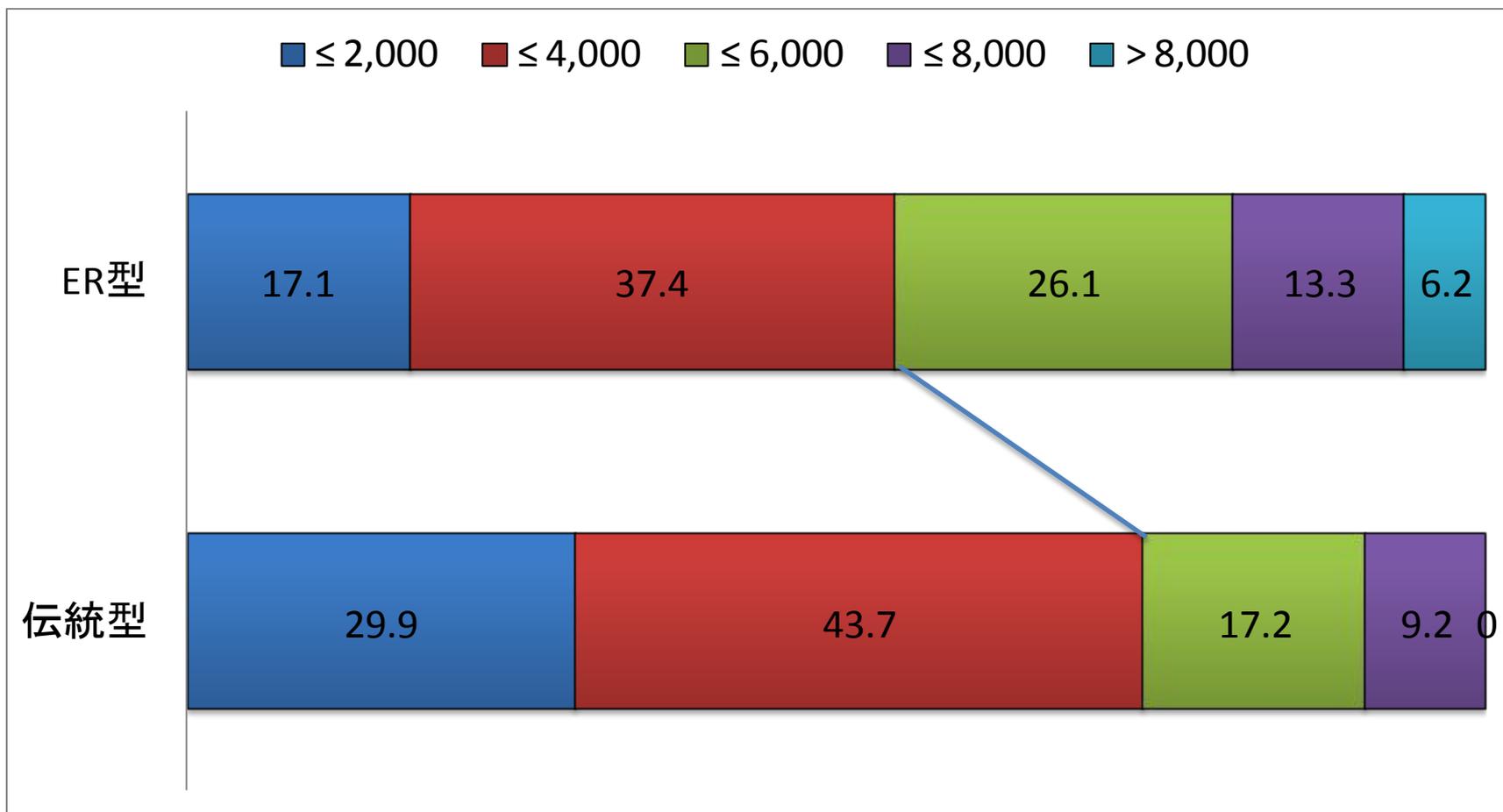
ER型と伝統的三次救急医療



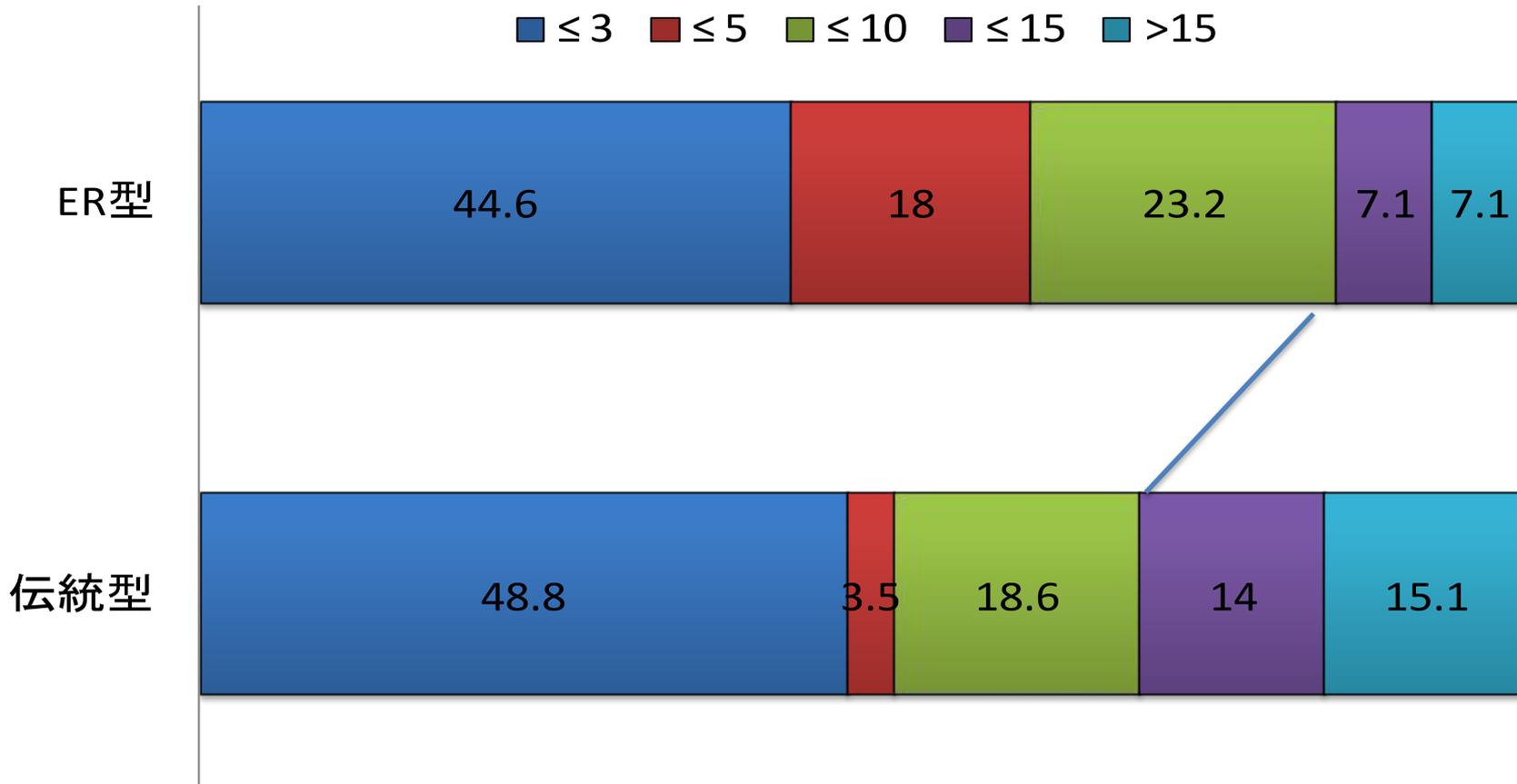
年間受入れ患者数



年間救急車受入れ台数



施設あたりの救急医の数



(Acad Emerg Med. S23 19(4) 2012)

ER型救急医療体制の利点

- Anyone, Anything, Anytime
 - ✓ 地域住民に安心感
- 初期診療後に専門的な治療が必要な場合は
相応する専門科が対応
 - ✓ 病院が提供できる最善の医療レベルが救急に
- 各科専門医と救急医双方に優しいシステム
 - ✓ 持続可能な体制
- 多種多様な訴えに対応
 - ✓ 研修の場として最適

いつでも患者を受入れる地域の病院 としての取り組みと課題

➤ 医師

- 救急医: 交代勤務、可能な限り外来診療に専念
- 各科専門医: 救急診療へのincentive、豊富な症例を経験

➤ 搬送

- ドクターカー: 二次医療圏外からの搬送時に連携
- モービルER: 他院からの転院依頼に救急車を利用しない

課題

医師数の充実

➤ 情報共有

- 医療ネット: 紹介元医師が当院のカルテ閲覧可能

課題

双方向性の確立

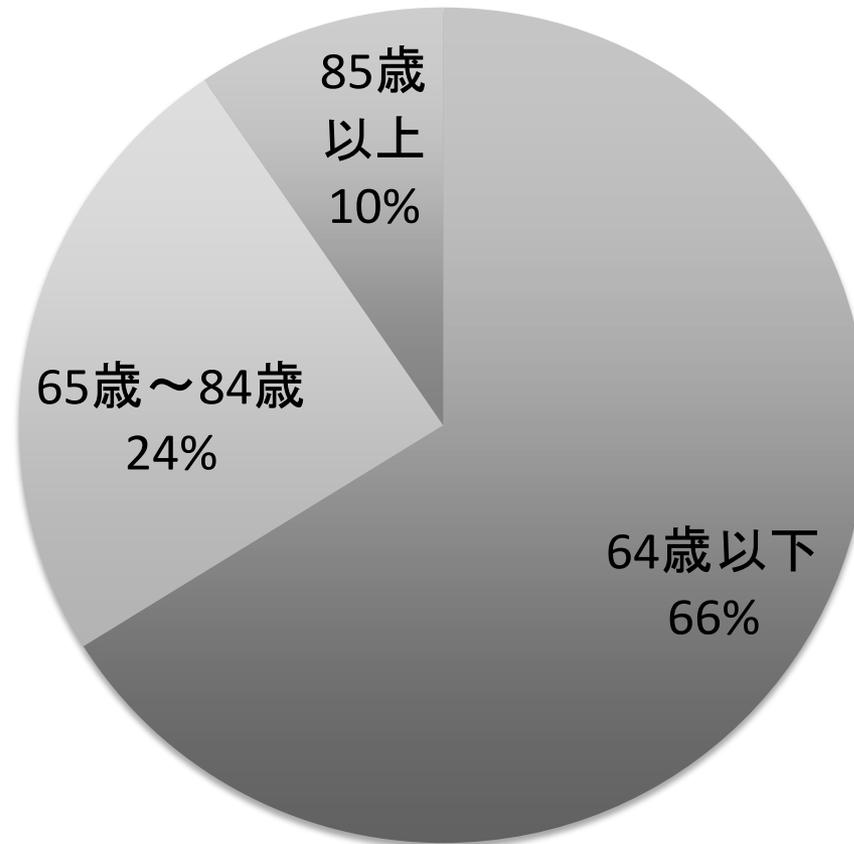
➤ 病床

- 後方病床確保: 4つの後方支援病院と連携

課題

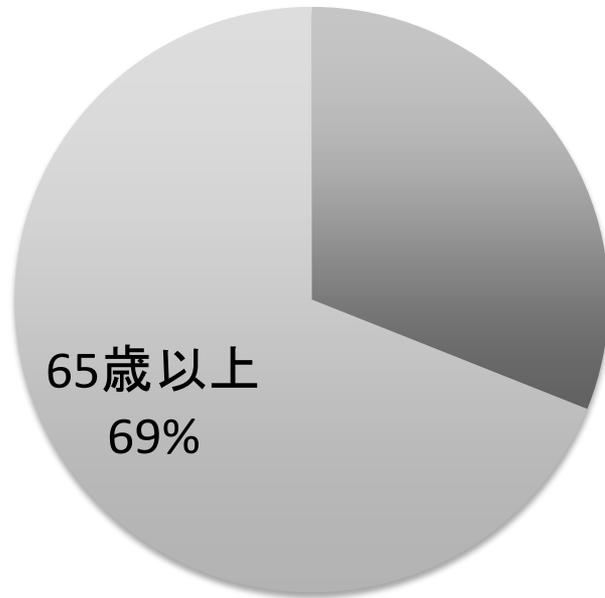
後方病床数の増加

ER受診患者 高齢者の割合

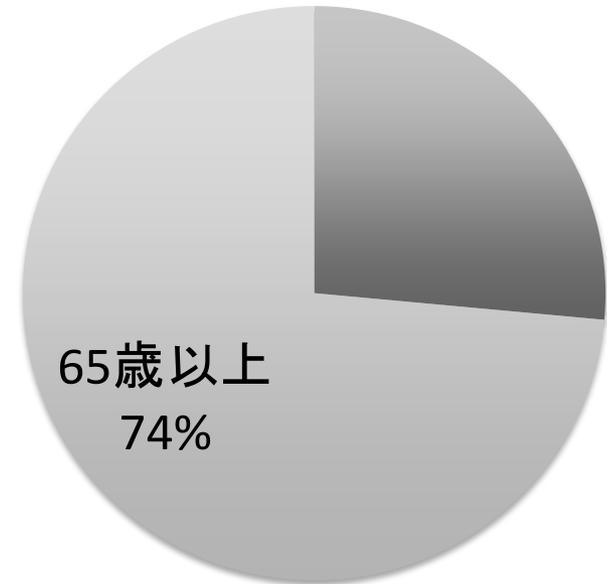


ERからの入院（高齢者）

一般病棟への入院
6,354人



HCUレベル以上の入院
1,080人



85歳以上 22.5%

ERからの高齢者入院疾患

上位3疾患

- | | |
|--------------------------|------|
| 1. 誤嚥性肺炎 | 606件 |
| 2. 大腿骨頸部骨折
(転子部骨折も含む) | 346件 |
| 3. 急性腎盂腎炎 | 179件 |

(平成23年度)

高齢者救急医療の現場で

診療面での難しさ

- 複雑な病歴
- 非典型的な症状
- 何が新しい問題なのか分かりにくい
- 複数の内服薬
- 自宅介護力が十分でなく社会的入院も
- 積極的な治療をどこまで行うか

マンパワーと時間が不足する救急医療の現場で
ヒトと時間を十分に割り当てることが要求される

- 高まる救急需要への対応としてER型救急医療体制は有効と思われる。
- さらに増大していくと予想される高齢者救急需要に対して、救急医療の側面だけでなく、地域内の包括的な取り組みが不可欠と思われる。